

# 医療と内観 (第十五回)

富山市民病院精神科

吉 本 博 昭

## 親の意見と茄子の花

「親の意見と茄子（なすび）の花は千に一つの無駄もない」という諺を教えてくださいましたのは、アルコール依存症のAさんです。「今まで、親は自分の行いを心配していろいろな言葉をかけてくれた。特に酒の飲み方が異常だったもので、体に悪いから度を越して飲まないようにと。言われたことは正しいと思う一方、何となく素直に聞き入れることができず、いい加減な返事をしたり、うんうんと返事はするものの耳の痛いことは無視したり、親に責任を転嫁したりしてきました。内観に出合って自分が少し見えてきたよ

うに思うし、この年になって親の有り難みを感じれるようになりました」と述べられた後に、この諺を話してくれました。

この諺の由来は、茄子の花は咲いた分だけ残らず実をつけて無駄がないことから、親の意見も同じように無駄はないので、しっかりと聞いておきなさいという教訓です。茄子を思い浮かべると、小さい頃に畑に茄子を母親と植えた光景を思い出します。一つ二つと花の数を数えた思いはありませんが、花がしおれるとその付け根に小さな実を見つけて早く大きくなれと妹と願ったものです。次から次へと実を結ぶ多収穫野菜ですので、茄子の漬け物を始め夏の食卓を賑わせてくれた思いがあります。最近は季節感がないながら、漬け茄子用の小ぶりの茄子を店頭によく見かけますので、まだまだ旬の香りは残っています。

ところで、何故このような諺が言い伝えられてきたのでしょうか。親の意見に素直に耳を傾ける難しさを示しているようです。親の愛情の

こもった言葉でも、物理の作用と反作用のように、Aと言われると、Bと答えてしまう自分がいて、後で嫌な思いをしてしまいますと言われた患者さんもいます。確かに、親であっても苦言であれば、非難と受け止めがちです。

人は、非難されるといろいろな反応を示します。例えば、冷静にとらえ自分が気づかなかつた点を認め、役立てようとする場合があります。こんな人は少なく、Aさんは、逆に「酒を飲み続けると大変になる」という客観的な言葉を冷静に受け止められず、感情的となり逆上し「お前は、俺の給料で食っている身分でよくもわかつたような口がきけるな」と酒が入っていると言いながら悪態を吐いたといえます。その他に言い訳をする人もいます。「飲みたくなかったが、上司が飲めというもので」と、きちんと断れなかつた自分は棚においてそんな対応を示す人もいます。さらに言われて落ち込む人もいます。大抵、自分は酒飲みで何度も同じことを言われながらも酒を飲み続けている、自分を無価

値な人間として考えるからです。

人はどうして素直に人の言葉を受け入れ難いのでしょうか。親であればなおさらで、親にコントロールされたくないと思うからでしょうか。プライドを傷つけられるからでしょうか。我々は日々の生活の中で、われがわれがの我執の中にドップリつかりながら生きています。我執を離れた精神的な自由な世界で暮らせれば、冒頭の諺は歴史上消えていたでしょう。日常内観の難しさが良く言われますが、内観マインドになると我執が引っ込み、他人や親の意見も素直に聞けるのではないかと思うのです。

余談ですが、茄子の花はすべて実を結ぶわけではなく、天候、樹勢に影響されると無駄花（落花）も出るのが本当らしく、そうであれば親の意見も時には無駄もあるということになります。五人の子供を持つ私は、無駄花のような意見を結構言っているのではと、キーボードを叩きながらも反省させられました。